

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農林水産部長

令和 4 年度 兵庫県農業気象技術情報第 3 号 ( 7 月情報 ) について ( 送付 )

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	県北	1 生育 コシヒカリの草丈は平年より長く、茎数はかなり多く、葉齢の進展は平年並みである。遅植えでは、草丈は平年よりやや長く、茎数はかなり多く、葉齢の進展はやや早い。	
		2 栽培管理 分施肥体系の場合、適期に穂肥の施用を行う。	2 栽培管理 高温により稲の生育が早まるので、穂肥診断を的確に実施し、適正施用に努める。
	県北以外	1 生育 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。	
		2 栽培管理 中干しを実施する。小ひびが入れば走り水を施し、おおむね10日間程度とする。分施肥体系の場合、適期に穂肥の施用を行う。	2 栽培管理 高温により稲の生育が早まるので、穂肥診断を的確に実施し、適正施用に努める。
全県共通		1 病害虫 (1)ヒメトビウンカ第1世代虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は近年2%程度で推移しており、本年は平均で1.1%であった。保毒虫が広域で確認されているので、今後の発生状況に注意する。 また、海外飛来性ウンカ（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の期間に飛来があったと考えられ、今後、晴天・少雨が続くことにより増殖が進むことが懸念される。  (2)今後の気象は、1か月予報によると、気温は高く、降水量は少ない予想であるが、これまでのいもち病の発生予測システム	1 病害虫 (1)本田における初期発病株(葉色が薄くなり巻いて垂れ下がるゆうれい症状を現す)は、感染源となるので、速やかに抜き取る。 初期発病株が多数確認される場合は、後期発病を予防するため、ヒメトビウンカに対する本田防除を実施する。 防除の要点については「水稲、小麦二毛作地域における縞葉枯病防除マニュアル」を参考にする。 <a href="http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/themes/pest/pdf/aside2-2.pdf">http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/themes/pest/pdf/aside2-2.pdf</a> 海外飛来性ウンカについては、ほ場調査や病害虫発生予察情報の確認等により、今後の発生状況に注意を払い、防除については、「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」を参考に、適正に防除する。  (2)ほ場内の補植用苗は早急に処分する。ほ場をよく観察して葉いもちの発生状況を把握する。いもち防除剤の育苗箱処理をしていない場合や育苗箱

	<p>BLASTAMでは6月中旬に感染好適日が広範囲にでているため、今後の発生に十分な注意が必要である。</p> <p>(3) 6月以降、予察灯において斑点米カメムシの誘殺が続いている。近年、耕作放棄地の増加等から、斑点米カメムシの発生が多い傾向にある。</p>	<p>処理していても移植40～50日後以降に葉いもちが発生している場合は、ただちに防除する。また、強い中干しや過剰な追肥は避け、穂いもちの防除は穂ばらみ期～出穂直前に実施する。7月中旬まで、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上で提供しているBLASTAM*によるいもち病の感染好適日の情報を参照する。  <a href="http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/blastam">http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/blastam</a></p> <p>(3) 雑草管理ができていない畦畔は、斑点米カメムシ類の増殖場所となるため、適宜、草刈りを行う。</p>
大豆 全 県 共 通	<p>1 栽培管理  「サチユタカA1号」の栽植密度は、播種適期の6月下旬～7月上旬では8～12株/m<sup>2</sup>とし、播種が7月中旬になれば20株/m<sup>2</sup>の密播とする。  播種直前に耕うん、砕土を丁寧に行い、播種する。  明きょ等の排水対策を必ず講じる。  中耕培土を行う場合は、除草を兼ねて早めに行う（目安は本葉3葉期以降）。2回実施するのが理想的である。</p>	<p>2 病害虫  (1) フェロモントラップでは、ハスモンヨトウのピークはまだ見られていない。  (2) 3か月予想では、今後、降水量は少ない予報であるが、気温は高く推移すると予想されているため、畝間灌水等を行う場合は、排水の悪い圃場では特に黒大豆の立枯性病害の発生に注意する。</p>
		<p>2 病害虫  (1) 生育初期でのハスモンヨトウの幼虫の発生は被害が大きくなりやすいので、「病害虫発生予察情報」や「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」を参考に、速やかに、かつ適正に防除する。  (2) 黒大豆の立枯性病害の常発地では、排水対策を徹底する。</p>

※BLASTAM:葉いもちの感染好適日を推定する予測システムモデル。気象条件から感染好適条件を推定する。好適日が連続するとき、広域に出現するときは多発条件となるので注意が必要である。

作物地域	栽培上の留意点	対応策										
キヤベツ 全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1)目標とする収穫時期に応じた品種、播種時期を選定する。</p> <p>(2)高温期の育苗のため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。</p> <p>(3)セルトレイ育苗中期以降の肥料切れに注意する。</p> <p>(4)降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。</p> <p>(5)定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。</p> <p>2 病害虫</p> <p>梅雨明けが早かったことにより、ハイマダラノメイガの増殖が進むと考えられる。</p> <p>また、フェロモントラップでは、4月中旬にコナガ、5月中旬にオオタバコガの誘殺ピークがみられた。シロイチモジヨトウについては6月に入り誘殺数が増加し、平年並からやや多く推移している。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1)地域の暦に従って種子、育苗資材等の準備を進める。</p> <p>(2)ベンチ等での浮かし育苗に努め、苗が徒長しないよう夕方のかん水を控える。発芽後、子葉の奇形など異常のある苗は取り除く。</p> <p>(3)早めに液肥を施用する。</p> <p>(4)高畝栽培とし、明きょ等の排水対策を徹底する。</p> <p>(5)土壌の適湿時に耕うん、畝立てを行う。定植の際、セルトレイには十分かん水し、根鉢を湿らせておく。定植後は、かん水チューブ等で十分にかん水し、活着を図る。</p> <p>2 病害虫</p> <p>病害虫の発生がみられる場合は、「病害虫発生予察情報」や「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。</p>										
果樹 全県共通	<p>1 生育と栽培管理</p> <p>雨水がすみやかに園外に流れるよう、明きょや排水溝の掃除等の排水対策に努める。</p> <p>高温少雨が続けているため、かん水設備や敷き草、マルチなどで乾燥防止対策を実施する。かん水量が確保できない場合は、樹冠周囲に集中的に行う。下草による土壌水分の競合を避けるため、刈り取り樹冠下に敷き、土壌からの蒸散を防ぐ。</p> <p>樹種別の生育状況</p> <table border="1" data-bbox="320 1507 1310 1780"> <tbody> <tr> <td>クリ※<sup>1</sup></td> <td>開花期は昨年比で10日早く、平年比で1日早い。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ※<sup>1</sup></td> <td>生育はほぼ昨年並みで、平年よりやや早い。</td> </tr> <tr> <td>ナシ※<sup>2</sup></td> <td>果実の生育は昨年比で4～5日遅く、平年比で2日早い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク※<sup>1</sup></td> <td>発芽期は平年比で8日早い。着果始めは平年比で6日早い。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン※<sup>3</sup></td> <td>生育は昨年比でほぼ同等、平年並み。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 加西市    ※2 朝来市    ※3 南あわじ市</p> <p>2 病害虫</p> <p>果樹カメムシ類について、本年は発生が多い表年にあたる。フェロモントラップや予察灯での成虫の誘殺数が6月中旬以降、例年になく多い状態がみられる。</p> <p>但馬地域の6月のナシ調査では黒斑病はやや少なく、その他の病気も多い情報はないが、今後、これまでの降雨の後の</p>	クリ※ <sup>1</sup>	開花期は昨年比で10日早く、平年比で1日早い。	ブドウ※ <sup>1</sup>	生育はほぼ昨年並みで、平年よりやや早い。	ナシ※ <sup>2</sup>	果実の生育は昨年比で4～5日遅く、平年比で2日早い。	イチジク※ <sup>1</sup>	発芽期は平年比で8日早い。着果始めは平年比で6日早い。	温州ミカン※ <sup>3</sup>	生育は昨年比でほぼ同等、平年並み。	<p>2 病害虫</p> <p>園地での発生状況を観察し、必要に応じて適期防除を行う。「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。</p>
クリ※ <sup>1</sup>	開花期は昨年比で10日早く、平年比で1日早い。											
ブドウ※ <sup>1</sup>	生育はほぼ昨年並みで、平年よりやや早い。											
ナシ※ <sup>2</sup>	果実の生育は昨年比で4～5日遅く、平年比で2日早い。											
イチジク※ <sup>1</sup>	発芽期は平年比で8日早い。着果始めは平年比で6日早い。											
温州ミカン※ <sup>3</sup>	生育は昨年比でほぼ同等、平年並み。											

高温で、樹勢が弱ることが予想されるため、各種病害の発生に注意する。

◎水稲・麦・大豆の栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農業情報システム）」を参考にすること。  
※本情報は、6月29日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

### (1) 近畿地方の向こう1か月予報

近畿地方 1か月予報 (06/25~07/24)		
2022年06月23日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 06/25~07/24	天候	平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、多い確率50%です。
1週目 06/25~07/01	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 07/02~07/08	気温	2週目は、高い確率50%です。
3~4週目 07/09~07/22	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)					
気温	近畿地方	向こう1か月 06/25~07/24	10	20	70
		1週目 06/25~07/01	10	10	80
		2週目 07/02~07/08	20	30	50
		3~4週目 07/09~07/22	20	40	40
降水量	近畿地方	向こう1か月 06/25~07/24	40	40	20
日照時間	近畿地方	向こう1か月 06/25~07/24	20	30	50

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

### (2) 近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報 (07月~09月)		
2022年06月21日14時00分 大阪管区気象台 発表		
07月~09月	気温	平均気温は、高い確率50%です。
07月	天候	期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
08月	天候	平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
09月	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)					
気温	近畿地方	07月~09月	20	30	50
		07月	20	40	40
		08月	30	30	40
		09月	20	40	40
降水量	近畿地方	07月~09月	30	30	40
		07月	40	30	30
		08月	30	30	40
		09月	30	30	40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病害虫防除所（病害虫発生予察情報）」  
<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」  
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」  
[http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)
- ・「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」  
[http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2011/180a0\\_01\\_33.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2011/180a0_01_33.html)

問い合わせ先

**本情報に関すること**

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課

TEL (078)341-7711(代表)

農産班:主作・機械担当 内線 4074

農産班:野菜担当 内線 4054

花き果樹班 内線 4066

**技術内容に関すること**

- ・県立農林水産技術総合センター

企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435

農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410

農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222

北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230

淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)

(兵庫県トップページ>分類から探す>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)